

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：中央アジアの風景と、「中央アジア+日本」対話のイメージキャラクター（真ん中）及び
日・中央アジア 5 か国外交関係樹立 30 周年（2022 年）公式ロゴマーク（右下）

JDS × 中央アジア 外交関係樹立 30 周年記念特集

第 1 回ユース国際研修@UNAFEI
薬物に関連する犯罪を防止する

旅する料理：バングラデシュの香り米「チニグラ米」



日本 × 中央アジア

外交関係樹立 30 周年記念特集

外務省からコメントをいただきました！

「中央アジア」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。普段の生活の中で関わる機会が少なく、遠い国に感じる方も多いかもしれませんが、中央アジア 5 カ国が国家として独立以降、日本は同地域の経済発展に向けた支援を続けてきました。JDS においても、2000 年にウズベキスタンから留学生を受入れてから、これまでに中央アジア 3 カ国から 600 名以上の留学生を受け入れています。

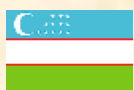
2015 年には安倍総理が日本の総理大臣として初めて中央アジア 5 カ国を歴訪し、日本人の間で中央アジアに対する関心が高まってきています。そのような中、JDS 留学生が母国の発展へ貢献するだけでなく、母国と日本を繋ぐ「アンバサダー」として二国間の架け橋となり活躍することが期待されています。

来年 2022 年、日本と中央アジアが外交樹立 30 周年を迎えることを記念して、本号では JDS と中央アジアのあゆみを振り返ります。

JDS を通じて日本で学んだ方々が、中央アジア各国の発展と日本との関係強化のためにご尽力されていることを大変嬉しく思います。

来年 2022 年に外交関係開設 30 周年を迎える中央アジア諸国との友好関係を益々発展させるため、JDS の日本留学で培った知識・経験を有する若手行政官の皆さんとも幅広い分野で協力できることを期待しています。

外務省欧州局中央アジア・コーカサス室



ウズベキスタン

JDS ウズベキスタンは、JDS 事業開始年である 1999 年から留学生の募集選考が開始されました。これまでに 300 名以上の若手行政官が JDS 留学生として日本留学を経験し、帰国しています。2019 年には事業開始 20 周年を迎えたことを記念して、ウズベキスタン現地で同窓会イベントが開催されました。

2020 年には 15 期生の Abdinazarov Bobur 氏が経済開発貧困削減省副大臣(2020 年～現在)に就任するなど、帰国留学生が要職に就く例も増えています。



Abdinazarov Bobur 氏

(写真は [KUN.UZ](https://www.kun.uz) の記事より引用)



タジキスタン

タジキスタンにおける JDS 事業は 2008 年に開始され、すでに 50 名ほどの帰国留学生がいます。現在はタジキスタンの持続可能な経済発展に向けて、毎年 15 名の JDS 留学生が日本へ送り出されています。

2020 年には 6 期生の Amonzoda Shirin 氏が労働移民雇用大臣に就任し、JDS 帰国留学生の中で初めての女性大臣となりました。



JDS 留学生の来日レセプション

(前列左から 2 番目が日本留学中の Amonzoda Shirin 大臣)



キルギス

キルギスにおける JDS 事業は 2006 年に開始され、すでに 200 名ほどの帰国留学生がいます。

帰国留学生の中には、副大臣、事務次官級の職位への昇進者も多数いるほか、大臣級の職位に就任する者(Ahmetov Uran 氏/元法務大臣(2016～2018 年)、Kadyrbekov Nurjigit 氏/元文化情報観光省大臣(2020 年)など)もあり、今後も帰国留学生がキルギス政府の政策策定に中心となって貢献していくことが期待されます。



母校の立命館大学を訪問する

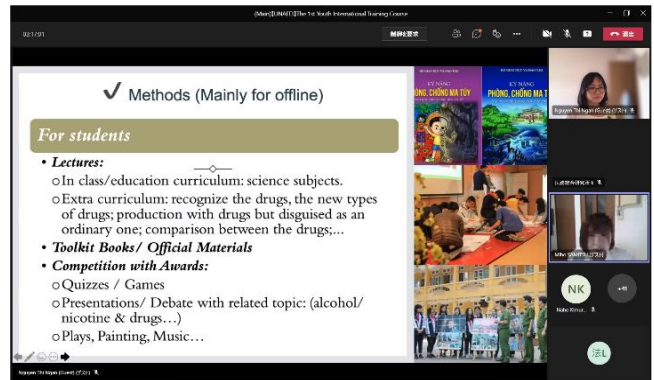
Imanaliev Daniyar 経済・財務省第 1 副大臣(左から 2 番目)

第1回ユース国際研修 @ UNAFEI 薬物に関連する犯罪を防止する

2021年8月、国連アジア極東犯罪防止研修所(United Nations Asia and Far East Institute for the Prevention of Crime and the Treatment of Offenders)の主催で、第1回ユース国際研修が5日間開催され、日本人学生12名に加えJDS留学生11名がオンラインで参加する機会を得ました。研修テーマは「薬物に関連する犯罪の防止及び薬物からの離脱のための若者の取組について」で、刑事司法や犯罪者処遇に関する国内外の取組や課題を学びました。

海外の専門家による講義を含む多様な講義が行われ、東南アジア地域における薬物の製造や取引、これらに関わる組織犯罪などの実情、薬物依存からの回復のために必要な対応とともに、薬物の問題をめぐる日本の刑事司法機関の実務など、薬物の問題について幅広い視点から理解を深めました。参加者は講義で得た知識を踏まえ、薬物の予防や薬物使用からの離脱、対応策についてケーススタディ形式のグループディスカッションを行い、最終日にはその成果が発表されました。

参加したJDS留学生からは、「ケーススタディで提示された違法薬物使用の事例を基に、それが最終的に彼女の生活にどのように影響し、どのように通常の生活を取り戻すことができるか。また、地域社会の役割、麻薬密売根絶のための国家対策、違法行為の防止について等、参加者から多様な見解、革新的なアイデアが出され、非常に興味深い研修であった。」との感想が寄せられました。



参加者による発表の様子

国連アジア極東犯罪防止研修所 (UNAFEI)とは？

国連と日本国政府との協定に基づき、昭和37年に設立された国連の地域研修所です。日本国政府と国連とが共同で設置し共同運営している機関で、主な業務は各国の刑事司法実務家を対象とする国際研修及びセミナーの実施、犯罪防止及び犯罪者処遇に関する研究等です。国連の政策と取組に沿いつつ、アジア太平洋地域を始めとする各国の刑事司法の健全な発展と相互協力の強化に努めています。

UNAFEIは、ラテン・アメリカ、アフリカ、北ヨーロッパ等にある国連の地域研修所の中で最も長い歴史と実績を有しており、国連の目指すグローバルな犯罪防止や犯罪者処遇に関する政策の立案、実施に協力しています。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid



旅する料理

Recipes around the world

JDS 事業が開始されてから今年で 20 周年を迎えるバングラデシュ。国家としても、2020 年に「建国の父」と称されるムジブル・ラーマン初代大統領生誕 100 周年、2021 年に独立 50 周年という大きな節目を迎え、今年は現地やオンラインで記念式典・イベントが開催されました。

これに伴い、在京バングラデシュ大使館から JICE スタッフに、素敵な記念品が届きました。今回はそのうち、バングラデシュの香り米「チニグラ米」について紹介します。

一人あたりの米消費量が世界トップとも言われるバングラデシュですが、チニグラ米は、バスマティ米等とともに一般的に食されており、ピラフやビリヤニの調理に使用される事が多いそうです。

大使館からいただいたレシピを元に、人生初のポラウ（ピラフ）作りに挑戦してみました。作り方はとてもシンプルで、フライドオニオンを作った後、同じ鍋でスパイス（シナモン、カルダモン、クローブ等）とともにお米を軽く炒め、水を加えて加熱すれば完成です。

チニグラ米は小粒で火の通りも早く、パラパラとした仕上がりで鍋に焦げ付くこともないため、初心者でも調理しやすいお米でした。香り米（aromatic rice）と呼ばれるだけあり、お米自体にも香ばしい香りがあり、フライドオニオンを乗せてそのまま食べても、カレーと一緒に食べても、本格的な味わいを楽しむことができました。また、主食だけではなく、ライスキールという甘いデザートも作れるそうです。

海外旅行が難しい今、料理を通して旅行気分を味わってみてはいかがでしょうか？



左下：大使館から届いた記念品、右上：チニグラ米

JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます
- 2 **5,029名 18カ国の実績**
※事業終了国の人数も含む
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わる等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画（JDS）は無償資金協力による JICA 留学生受入支援事業です。

Editor's Note

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

JICE で仕事をしていると、これまでに全く関わりのなかった国と出会うことがあります。私にとっては中央アジアの国々もその一つでした。その国の人・食・文化に出会うことで、少しずつ国のイメージに色がつく瞬間は、心が躍ります。本広報誌を読み、JDS について知っていく中で、皆さまにも新たな国との出会いや、国の新たな一面を見つける小さなきっかけがあれば、大変嬉しく思います。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
留学生事業第一部 留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.PR@jice.org